

## 大阪国防館跡

大阪城は、16世紀後半に豊臣秀吉（1537-1598）によって最初に築城され、息子の秀頼（1593-1615）が継承した。秀吉が亡くなったときは秀頼はまだ子供で、秀頼が適齢になった時には、新しい関白（天皇の相談役）になる予定であった。これによって秀頼は国の実質的なトップに君臨できるはずであったが、秀吉が信頼していた相談役であり、大老の一人でもあった徳川家康（1543-1616）はこの権力の真空を自ら埋めようとした。しかし、家康にとって邪魔者であった秀頼が秀吉の地位継承を主張し始める前の1615年に、秀頼を滅ぼすために大阪城を攻撃した。城のこの場所は、秀頼が家康の軍隊に最後の抵抗を行ったと言われる場所である。言い伝えによると、秀頼は城が焼け落ちるとともに切腹したと言われている。

第二次世界大戦中、この場所には、大阪国防館と呼ばれる軍事博物館と展示ホールがあった。これは中国本土の戦地の兵士をたたえ、国民の国防思想の普及させるために1940年に帝国陸軍によって建造された。大阪国防館が公開されていたのはわずか二年間だけであった。軍は戦況が日本に不利になってきた1942年にひっそりと大阪国防館を閉鎖した。その後、城内の中央にあったこの建物は中部軍司令部防空作戦室で働いていた女性無線通信員の寮として使用された。